

B-101 乳児用衛生用品についての研究(第6報)
殺菌・消毒剤処理布と衛生加工紙の殺
菌・制菌効果

福岡女子大 平松 園江
福岡学芸大 ○高木 葉子

1. 現在市販されている衛生加工布には、製織後加工されたものと合成繊維の紡糸過程に加工剤を混入したものとがあるが、いずれも長期にわたる効果は期待できず、洗濯回数が多い乳児用衣類にはあまり有効でないことを確かめ前報で報告した。今回は、手近に入手できる殺菌消毒剤で処理することにより、既着している菌を殺菌するのみでなく、更に効果を持続させ得ればおむつかぶれの発生を、より予防できると考え本実験をおこなった。一方衛生加工紙が市販されるようになったので、この制菌効果も検討した。

2. 塩化ベンゼトニウムを主成分とする消毒剤2種、塩化ベンザルコニウムを主成分とするもの1種、塩酸アルキルポリアミノエチルグリシンを主成分とするものおよびクレゾール石ケン等の消毒剤にて処理した布と2種の衛生加工紙について次の方法で実験をおこなった。尿素ブイヨン培地中に *B. Ammoniagenes* 菌と試料を加え37°Cで24時間培養後 pH を測定し、アンモニア発生により変化した pH の差を 1/100 N H₂SO₄ で適定した。

3. クレゾール石ケンに比較し、他の4種は低濃度で効果がある。2種の衛生加工紙はいずれも効果が大であった。衛生加工をしない紙おむつには菌が繁殖しやすい。